

事業実績（視察）報告

1. 視察の概要

- (1) 目的 こどもの居場所創出事業（こども食堂）について、
里親100%プロジェクトについて
- (2) 日時 平成30年8月6日（月）13時～14時30分
- (3) 場所 兵庫県明石市役所
- (4) 参加者 大塚久美子



（明石市役所前）

2. 主な質疑とその回答

Q. こどもの居場所創出事業（こども食堂）の事業の概要は。

A. あかしこども財団は明石市が設立者となり、2018年（平成30年）5月1日に創設された。「すべての子ども」のしあわせのためにと、子どもを核としたまちづくりを進める明石市で創設された「あかしこども財団」。地域のすべての子どもたちを地域みんなで見守り支える社会を実現するために、子どもに関わる取り組みを進め、こども食堂を展開している。明石版こども食堂は、食をきっかけとした、すべての子どもたちが地域とつながる新たな居場所である。

- ①こどもの総合支援につなげる気づきの拠点
- ②すべてのこどもが対象
- ③あらゆる世代が気軽に集える居場所

全28小学校区で展開する目標。

Q. 里親100%プロジェクト事業の概要は。

A. “家庭”を必要とする子どもたちは全国で約45,000人、兵庫県で約1,500人以上いる。

明石市は、平成31年度児童相談所設置後に就学前乳幼児の里親委託率100%を目指すため、3つのポイントを基に取り組んでいる。

- ①里親を全28小学校区に配置できるよう取り組む
- ②児童相談所設置前から、他の設置市の6倍強の予算で取り組む
- ③体験里親制度を始める

Q. 里親の種類は。

A. 養育里親・養子縁組里親・専門里親・親族里親（以下のとおり）。

養育里親 子どもが自立できるようになるまで、あるいは家庭に戻れるようになるまでの間、子どもを育てる里親期間は様々	養子縁組里親 将来的に保護者が育てることが難しい子どもと、養子縁組または特別養子縁組によって養親となることを希望する里親
専門里親 2年以内の期間を定めて、虐待を受けた子ども等を経験や専門知識をいかして家庭で育てる里親	親族里親 保護者が死亡、行方不明等の理由により子どもを養育できなくなった場合、祖父母などの親族が養育する里親

あかし里親100%プロジェクト

Q. 里親になるための登録の流れは。

A. 以下のとおり。

- ① 相談する**
こども家庭センター(児童相談所)に連絡し、里親制度に関する説明をお聞きください。
- ② 研修や家庭訪問などを受ける**
養育里親、養子縁組里親になるためには研修受講が必要です。また、こども家庭センターから家庭訪問があります。
- ③ 里親登録のための審議認定・登録**
兵庫県の児童福祉審議会ですり親登録のための審議があります。
- ④ 子どもとのマッチング・委託**
こども家庭センター等から紹介があり、子どもとの面会・外出・外泊等の交流を経て、正式に委託されます。

あかし里親100%プロジェクト

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

全国一の子育て支援をしていると講演で紹介されたことのある明石市の子育て支援について視察した。こども食堂では、当日運営しているこども食堂がなく現地の視察はできなかったため、担当職員から説明を聞いた。

平成30年4月より中核市となった明石市が、市独自の児童相談所の設置を計画。県、政令指定都市外で中核市として児童相談所を持つ中核市は、金沢市と横須賀市であり、明石市がいかにより子どものための取り組みを重視しているかが伺える。

虐待や経済的事情などで親と一緒に暮らせない子どもたちは、全国で約4万5000人以上。虐待に関する相談が増加し、社会全体が受け皿となって育てる「社会的養護」の必要性は高くなっている。現在、その役割は主に施設養育が担っている一方、新しい家庭環境で育てる里親制度の普及が進んでいないのが現状である。

社会的養護が必要な子どもへの支援を充実させるため、平成16年5月に、改正児童福祉法が成立し、「社会的養護」が必要な子どもを、家庭と同様の環境で養育することが原則と明記された。これを受け、厚労省は、有識者検討会が取りまとめた「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえつつ、本年8月、都道府県に対し、社会的養育に関する推進計画の策定に向けた要領を提示。国の目標として、おおむね10年以内に、子どもの年齢に応じて里親委託率を50～75%以上に引き上げることを掲げたほか、児相の体制強化、施設の機能強化などを盛り込んだ。

新聞記事には、こうある。

『公益財団法人「日本財団」が行った調査によると、里親について「名前を聞いたことがある程度」と回答した人が大半であった。里親になる意向を示した人は6.3%にとどまる。里親になる意向はあるものの、子どもを預かっていない人に理由を聞くと「経済的負担が心配だから」などが多かった。

ただ、「里親には子どもの生活費として養育費が支給される」ことを知っている人が1.9%と、経済的なサポートがあることはほとんど知られていない。日本財団では、公的支援などの情報を提供することで、里親の意向者は6.3%から推計で12.1%にまで増える可能性がある」と分析している。』

里親制度の周知方法にも知恵を絞る必要がある。

児童相談所がない本市においては、特に里親制度に対する周知も積極的ではない印象を受けるが、市民に周知し、もっと制度を知ってもらい、里親のハードルを下げ、まずボランティアに参加してみたいという方を増やす取り組みが必要であると考えます。

今後の県の方針も踏まえ、周知啓発を進めてすべての子どもにやさしい西尾市となることを期待する。一般質問にて、市民へ制度の周知徹底を提案していきたい。



(視察の様子)

事業実績（視察）報告

1. 視察の概要

- (1) 目的 広島市立牛田中学校における「置き勉」について
- (2) 日時 平成30年8月7日（火）13時30分～15時
- (3) 場所 広島県広島市牛田中学校
- (4) 参加者 大塚久美子1名



(広島市牛田中学校内)

2. 主な質疑とその回答

Q. 「置き勉」開始の経緯は。

A. 広島市立牛田中学校は、1962年開校、創立56年目を迎える伝統のある公立の中学校。開校時の生徒数は954人（21学級）で男女共学、2学期制。生徒の活気と生徒会スローガンは、「志～挑み続ける牛田中～」。教育目標は、「自立し、互いに支えあい、高め合う生徒の育成」、「地域に根差した活気ある学校を目指す」である。

「脱ゆとり教育」によって教科書が分厚くなるなど、子どもたちの通学カバンやランドセルが重くなっている現状があり、教材を教室に一部置いて帰る「置き勉」を認める学校が徐々に増えている。一方で、家庭学習への影響を心配する声もある。

牛田中学校は、これまで国数理社英の5教科の教材は自宅に持ち帰るルールであったが、4月から英語と国語の一部教材を除き、置き勉を認めた。見直しのきっかけの一つが、パソコン放送部が昨年に行った8分20秒の動画「The School Bag is Heavy!!」（学校のカバンが重い）。一人の生徒のリュックやサブバッグなどの荷物を量ると、何と18.4キロ。生徒らにインタビューし、「坂道がとてつらい」、「転びそうになった」、「ひもが肩にめり込む」などと訴える内容。動画のテーマを提案したのは、2年生の足立ころろさん、入学時カバンの重さに驚き、靴箱で上靴に履き替えようとしゃがむと、体を起こせないほど重く、その時に「軽くしたい」と思ったことがきっかけとなり、解決策として「置き勉」を提案。動画の中では、忘れ物が増える、宿題をしなくなる、教室が汚くなるといった懸念も伝え、「キーワードは『信頼』大丈夫だと思わせる生徒力が問われている」と結んでいる。作品は市主催の文化祭で優勝し、動画はネットで配信されている。

Q. 生徒と教員との協議等は。

A. 動画では、教師がカバンを背負い、学校までの坂道を上るシーンもあり教師自ら体験する。校内で動画を公開すると、大きな反響を呼び、学校も対策をとるきっかけになった。

「脱ゆとり教育」で教科書の大きさは1.5倍、ページ数も約3割増し、教科書数と副教材も増え、重さの増加につながっている。また、成長期の子どもたちにとって、重い荷物を背負うことにより、本来は伸びるべき身長よりも抑えられたり、背骨のS字カーブが変わり、腰痛や肩こりを起こしたりする一要因には十分なり得るとも言われている。「学校としても、この問題に取り組もうとしていた時期でもあったため、議論の後押し役目できたと思う」と話されていた。学校側は、カバンを軽くするため、特定の教材は「置き勉」可能というルールを作り、さらに、本年4月から、英語と国語の一部教材を除き置き勉を認めた。まさに学校と生徒のお互いへの信頼がルールを動かしたといえる。

Q. 「置き勉」の効果は。

A. 4月からカバンが軽くなり、バスに乗っていても人にバッグが邪魔にならなくなったとの生徒の声がある。今日置いていく教材は何か、自分で考える力がつき、教室がきれいになると乱雑に置いていた生徒が目立つようになり、自然に教室が整理整頓されるようになった。そこには美化係の生徒が自主的にロッカーの整理整頓の点検を行い、毎朝きれいになったことへのお礼を皆に伝えるという行い、また、明日の授業でいるものを伝える教科系の生徒等、自発的な行動が生まれている。「置き勉」を通して、生徒は「生徒と先生がちゃんと話せばなんでもできる」と思えたこと。校長からは「自分たちで努力する姿がずいぶん見られている。家庭学習がおろそかになったということはほぼ聞いていない。一方的ではなく、両者がいろいろな面で考えられたことが大きかった。」と述べられた。生徒が自発的に考え、行動し、学校と生徒の信頼がルールを動かしたことは、「置き勉」の許可という結果以上の大きな成果である。

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

「脱ゆとり教育」によって、小中学校では教える量の増加で、教科書が分厚くなり、教材も増える一方、原則それらを自宅に持ち帰るよう指導しているところも少なくない。そのため、ランドセルなどの荷物は重量が増し、腰痛となる子どもたちも出始めるなど、対策を求める声が上がっていることから、先駆的な取組を行っている広島県広島市立牛田中学校を視察した。

広島市立牛田中学校では、これまで国数理社英の5教科の教材は自宅に持ち帰るルールであったが、4月から英語と国語の一部教材を除き「置き勉」を認めた。見直しのきっかけの1つが、パソコン放送部が昨年につくった8分20秒の動画「the schoolbag is heavy!!(学校のカバンが重い)」。ある生徒のリュックやサブバッグなどの荷物を量ると18.4キロ。生徒らにインタビューし、「坂道がとてつらい」、「転びそうになった」、「カバンのひもが肩にめり込む」などと訴える内容。テーマを提案したのは2年生の女子生徒で、入学時、カバンの重さに驚き、軽くしたいと思ったことがきっかけだという。動画は解決策として「置き勉」を提案する。それに対し、一方的な要求だけでなく、公平な視点で、忘れ物が増える、宿題をしなくなる、教室が汚くなるといった懸念も伝えている点について、「キーワード」

は「信頼」、「大丈夫だと先生に思わせる生徒力が問われている」と結んでいる。校内で動画を公開すると、大きな反響を呼び、学校も対策をとるきっかけになったという。特定の教材は「置き勉強」可能というルールができたことで、以前よりカバンが軽くなった。今日置いていく教材は何か、自分で考える力がつき、教室がきれいになると、乱雑に置いていた生徒が目立つようになり、自然に教室が整理整頓されるようになった。そこには、美化係の生徒が毎朝、きれいになったことへのお礼を皆に伝えること、また、明日の授業でいるものを伝える役目の生徒なども要因の一つという事である。このように、生徒が自発的に考え、行動し、学校と生徒のお互いへの信頼がルールを動かした。動画はネットでも公開され、全国からも反響を呼んでいる。生徒のリアルな声と姿を表現する新しい形に共感を覚えた。

文部科学省が、本年9月6日に、学校は児童・生徒の携行品の重量に配慮するようとの通知を出した。本市では、通知を受け、各小・中学校に周知をしているとのことである。各小・中学校では、今回の通知以前から持ち帰る学用品の精選を進めているとの話であった。

通知された後の各学校の実態把握をしないか一般質問において資したが、それぞれの学校の自主性に任せ、調査の実施は考えていないとの答弁であった。しかし、実際に中学生の生徒に話を聞くと、現状は違っていた。

「どうしてそんなにたくさんカバンに教科書が入っているの？重いよね？」

「学校に勉強道具を置いていくと、先生に叱られる」、これがその時の会話である。これが実態である。西尾市内の何校かの保護者から相談を受けているが、文部科学省の通達のあとも改善されていないのである。通知の内容を、教育委員会から学校に伝えるのは当然である。それが子どもたちのもとに届いているか。一番大切なことは何か、本市においてはよく考えてほしい。文部科学省からの荷物を学校におろして、教育委員会は軽くなったと思っただけではいけない。子どもたちがどんな思いでいるのか、安心安全は守られているのか、見守ってほしい。それが願いである。今後各学校の実態把握に努め、子どもたちのために改善することを期待するものである。

収支報告

項目	支出金額	備考
調査研究費	56,160円	旅 費 55,080 円
		手土産代 1,080 円
計	56,160円	